

東桜コンピテンシー2019 「⑦判断力」について

⑦「判断力」

「何か決断や結論をくだす必要があるときに、広い視野をもち、適切に収集した情報を踏まえて、見通しをもって物事を的確に判断する力。」

私は、東桜学館の生徒諸君の中から、将来、それぞれが選択したフィールドにおいて、リーダーとして活躍する人がたくさん出てくることを確信しています。そのとき、リーダーとして求められる大切な資質として、「判断力（決断力）」があります。

また、私たちが生活する際には、リーダーであるなしに関わらず、判断する、決断する場面がたくさんあります。経験値としてはまだ十分とは言えないであろう十代の時期においても、自分の将来に関わるような、また、自分の人生を決定づけるような判断（決断）を迫られることがあります。

判断力を身につけるためには、どのようなことが必要でしょうか。私なりに考えてみたいと思います。

（i）「判断の経験を積む」「主体的に、自らの責任において判断する」

できるだけ悔いのない選択ができるようになるためには、まず「判断の経験を積む」（場数を増やす）、「主体的に、自らの責任において判断する」ことが大切だと思います。日常生活の中において、本来、自分が判断すべきことをご家族に委ねたりしていることはないでしょうか。また、人に同調することを優先したり、理由もなくただなんとなく判断したりしていないでしょうか。

良い判断ができる人になるためには、まず、判断する経験を積んで、その判断が適切であったかどうかを自分なりに振り返るといった経験を繰り返すことが大切だと思います。たとえ、失敗したとしても、なぜ、失敗したのかをきちんと振り返ることで判断する力が養われることとなります。人生の大きな決断を迫られるための、日々の小さな判断を大切にしたいものです。

（ii）「判断の基準や理由を明確にする」

適切に判断する際には、何を理由に、どのような基準でその判断に至ったのかを自分なりに明確にしておくことが大切だと思います。「ただなんとなく」では、望んだ結果が得られない場合、後悔につながります。その際には、目的に明確にすることも大切でしょう。

また、判断（決断）する際には「覚悟」や「責任」を伴わなければならない場合もあります。判断が自分だけでなく、周りにも影響する場合には、周囲を納得させられる理由や根拠を示さなければなりません。その意味でも、常に「基準や理由（根拠）を明確にして判断すること」が大切になります。

さらに、基準を明確にするためには、優先順位をはっきりさせ、シンプルに物事を

解釈することも大切になってきます。

まずは、日常生活、学習の場面において心がけてみましょう。

（iii）「直接、自分にかかわりがないことであっても自分事として考えてみる」

「当事者意識」という言葉を使うことがあります。直接自分にかかわりがないことであっても「自分事」として捉えることができる人は、人間としての成長が早いように感じます。

たとえば、SDGs（持続可能な開発目標）に掲げられた 17 のゴールについて、どのようにしていけばいいのかを考えてみる。一見すると自分には直接関係がないと感じる目標も、自分事として捉え、様々なことを知るうちに自分の生活に大きく関わっていることに気づくことがあると思います。

様々なことを自分事として捉え、考えてみることも判断する力を養ううえでの心構えとして大切なことだと思えます。

（iv）「・・・広い視野をもち、適切に収集した情報を踏まえて、見通しをもって物事を的確に判断する力。」について

これは、ここで定義づけた「判断力」の内容の一部です。

無知であるが故に、判断を誤ることは当然起こりえます。判断をするにあたって、それに関連する内容についてどの程度の知見をもっているか、自分なりに十分な情報が整っているのかを検討することも大切です。それによって、客観的な判断ができるかどうか左右されるでしょう。

AI の時代、わからないことは検索すればいい、したがって、これまでに比べれば知識の“量”は必要としないという考え方もあるでしょう。しかし、様々なことについて、まったく知らないのか、ある程度知っているのかでは大きな違いがあると言われています。できるだけ様々なことについて、知識を吸収しておくことはいつの時代も大切なことであり、適切に判断する場合にも重要なことだと思えます。

また、ステレオタイプのものを見方をしてしまいがちな人や、視野が狭く、偏ったものを見方をしてしまいがちな人は、特に「広い視野をもち、適切に収集した情報を踏まえて」ものごとを判断する必要があるでしょう。

さらに、目先のことだけに囚われるのではなく、先々を予測し、「見通しをもって物事を的確に判断する」ことも大切でしょう。

人生は選択の連続です。人生における分岐点において、その後の人生を豊かにする判断ができるよう日々学んでいきたいものです。

令和元年（2019年）8月